

事務事業マネジメントシート(平成22年度実績と平成23年度計画)

平成23年 5月31日 更新

事務事業名		児童館連絡協議会参画事業					マニフェスト 関連		全庁横断 課題関連		集中改革 プラン関連	
総合 計画 体系	政策 施策 基本事業	4 18 59	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり 子どもを見守り、育てる地域づくり 地域における子育て支援	事業連番 10590	法令 根拠		所属部 健康福祉部	課長名 中嶋万喜	所属課 子育て支援課	担当者名 中村恵子	所属班 (内線) 子ども保育班	2352
予算科目	会計 一般	款 3 項 2 目 4	事業連番 10590	法令 根拠					成果優先度評価結果 ⑫			
終了、開始年度			□ 22年度で終了 □ 22年度から開始	事業期間	□ 単年度のみ □ 期間限定複数年度	□ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) (～ 年度)	□ 削減優先度評価結果 ⑥					

★事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景、きっかけ、今後の状況変化を含む)	県内の児童館連絡調整及び菊池郡内の児童館連絡調整のため、熊本県児童館連絡協議会及び菊池都市児童館連絡会へ参画、負担金を支出熊本県児童館連絡協議会については昭和49年に、菊池都市児童館連絡会は平成元年に発送句しているため、東児童館は昭和61年、泉ヶ丘市民センター児童館は平成10年から、西児童館は平成14年からそれぞれに加盟している。熊本県児童館連絡協議会の事務局は、熊本県が主体となって、また、菊池都市児童館連絡会の事務局は加盟館の2年ごとの持ち回りで行われており、児童館の役割が増してくる中、児童厚生員の資質の向上も求められている。
【業務の流れ】	・協議会の会議開催、研修会の計画・実施・負担金納入事務、研修会への参加
【主な予算費目】	負担金
【意見や要望】	研修の回数や内容の充実が求められている。 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標 ①手段(主な活動) 22年度実績(22年度に行った主な活動) (DO) 熊児連 : 総会や研修会に参加した菊児連 : 総会や研修会に参加した	新規・拡充区分 23年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN) 熊児連 : 総会や研修会に参加する菊児連 : 総会や研修会に参加する ※ 西児童館は加盟していなかったが、平成22年度から加盟する予定にしている。
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標) ア: 参加回数 イ:	(単位) 回 予算の主な増減の理由
②対象指標(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 職員、児童厚生員	(単位) 人 ②対象指標(対象の大きさを表す指標) ア: 児童厚生員及び担当職員人数 イ:
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) ・目的に沿って参画できる。	(単位) 人 ③成果指標(意図の達成度を表す指標) ア: 参加できた人数 イ:

*③成果指標設定の理由と23年度目標値設定の根拠

活動指標としては、研修会等の開催回数であるが、成果指標としてその研修会等に参加できた人数として設定した。

(2)各指標・総事業費の推移			単位	20年度 実績(決算)	21年度 実績(決算)	22年度 目標(当初予算)	22年度 実績(決算)	23年度 目標(当初予算)	24年度 予定	25年度 見込	総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
① 活動指標	ア イ	回		3	0	3	5	3	3	0	
② 対象指標	ア イ	人		7	0	9	0	9	9	0	
③ 成果指標	ア イ	人		3	0	22	0	22	22	0	
投 入 量	事 業 費 額	国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 繰入金 一般財源	千円 千円 千円 千円 千円 千円								
		(A) 事業費計 (A)のうち指定経費 (A)のうち時間外、特勤	千円 千円 千円	66	0	79	79	79	79	0	
		人 件 費	人 件 費		0	0	79	79	0	0	
		正規職員従事人数 延べ業務時間	人 時間	2 15	0	3 41	3 40	3 41	3 41	0	
		(B) 人件費計	千円	60	0	163	164	168	168	0	
		トータルコスト(A)+(B)	千円	126	0	242	243	247	247	0	

事務事業名	児童館連絡協議会参画事業	所属部	健康福祉部	所属課	子育て支援課
-------	--------------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部 (S E E)

*原則は22年度の事後評価、ただし複数年度事業は22年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①22年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は?	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した 開催された研修会等には全て参加できた。	<input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】 ⇒【原因】
	②23年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか?	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり ⇒【理由】 ⇒【理由と対策】 開催される研修会等には全て参加するところであるので目標達成見込みである。	<input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させ余地はあるか?成果が頭打ちになってないか	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 ⇒【理由】 連絡協議会への参画事業であり、県もしくは都市で取り決めて行っているため向上の余地がない	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか?類似事業との統廃合ができるか?類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似した事業がない。	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 ⇒【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 ⇒【理由】 県及び都市の連絡協議会の運営のためにぎりぎりの負担金設定となっている。	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 ⇒【理由】
	⑥人件費 (延べ業務時間) の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか? 成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか? (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 ⇒【理由】 職員一人で担当しており削減余地はない。	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担が公平・公正になっているか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒【理由】 児童館を対象としているため公平・公正である。	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 ⇒【理由】
	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒【理由】 熊本県あるいは菊池地域の児童館同士の連携や情報の共有、児童厚生員の知識の向上を図るものであるため、役割分担は適正である。	<input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 ⇒【理由】

3 評価結果の総括 (S E E) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

開催された研修会等には全て参加できているし、加盟の児童館の児童厚生員も出来るだけ多く参加できている。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (P L A N)

(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案) . . . 複数選択可

- 廃止 休止 目的再設定 事業統廃合・連携 事業のやり方改善 (有効性改善)
事業のやり方改善 (効率性改善) 事業のやり方改善 (公平性改善)
現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)

(2) 改革・改善による期待成果
(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成績	向上			
	維持		○	△
	低下	△	△	△

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題 (壁) とその解決策